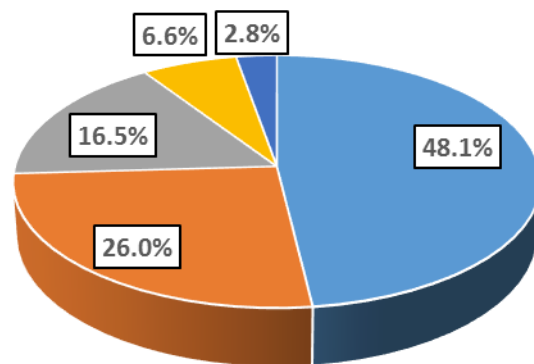


1. 複数応募の活用状況

【求人状況】R6.9末現在

	求人数(人)	割合(%)
月報値(合計)	11,476	
①9月16日から複数応募可	5,517	48.1%
②10月1日から複数応募可	2,986	26.0%
③指定校求人数	1,898	16.5%
④複数応募不可(指定校求人以外)	755	6.6%
その他(②④重複等)	320	2.8%



(参考) R5.10月末

	求人数(人)	割合(%)
求人数	11,226	
指定校求人数	2,450	21.8%

- ①9月16日から複数応募可
- ②10月1日から複数応募可
- ③指定校求人数
- ④複数応募不可(指定校求人以外)
- その他(②④重複等)

【産業・職業・規模別 求人状況】

産業別	求人数	9/16複数応募	割合
A・B 農・林・漁業	77	50	64.9%
C 鉱業、採石業、砂利採取業	2	2	100.0%
D 建設業	1493	792	53.0%
E 製造業	5158	2439	47.3%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	29	17	58.6%
G 情報通信業	155	25	16.1%
H 運輸業・郵便業	563	359	63.8%
I 卸売・小売業	1148	465	40.5%
J 金融業・保険業	108	0	0.0%
K 不動産業、物品賃貸業	114	76	66.7%
L 学術研究、専門・技術サービス業	290	91	31.4%
M 宿泊業、飲食サービス業	149	72	48.3%
N 生活関連サービス業、娯楽業	541	316	58.4%
O 教育・学習支援業	4	2	50.0%
P 医療・福祉	1068	515	48.2%
Q 複合サービス事業	74	43	58.1%
R サービス業(他に分類されないもの)	498	253	50.8%
S・T 公務・その他	5	0	0.0%
合 計	11476	5517	48.1%

職 業 別	求人数	9/16複数応募	割合
A・B・C 管理、専門・技術、事務	2068	1097	53.0%
D 販売	776	257	33.1%
E サービス	1466	369	25.2%
H 生産工程の職業	5029	2539	50.5%
I 輸送の職業	125	64	51.2%
J 定置・建設機械運転、電気工事の職業	411	200	48.7%
K 建設・採掘・運搬等の職業	1418	883	62.3%
上記以外の職業	183	108	59.0%
合 計	11476	5517	48.1%

規 模 別	求人数	9/16複数応募	割合
29人以下	3121	1567	50.2%
30～99人	3708	1890	51.0%
100～299人	2798	1438	51.4%
300～499人	864	333	38.5%
500～999人	374	161	43.0%
1,000人以上	611	128	20.9%
合 計	11476	5517	48.1%

2. 複数応募に関する【事業所】アンケート調査結果

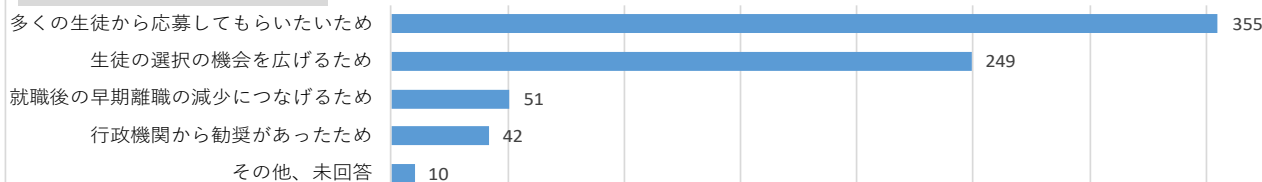
令和6年3月卒の新規高卒者を採用した県内企業825社へ、令和6年度における複数応募の活用状況等についてアンケートを実施し、回答のあった640社（回答率77.6%）の結果を取りまとめた。

	当初から複数応募可	10月以降複数応募可	複数応募否	計
企業数	400	138	102	640

質問1：複数応募を可または否と選択した理由について（複数回答可）

<当初から複数応募可>

【社】

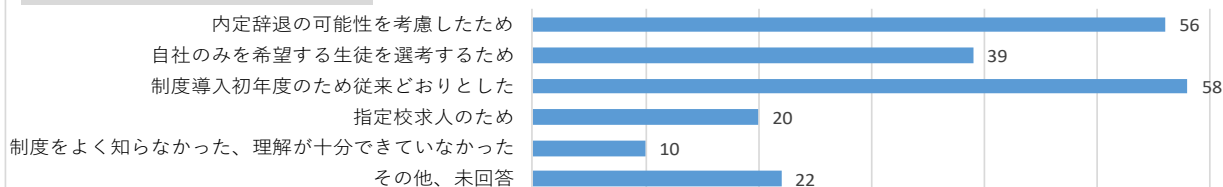


（主な意見・その他）

- ・ハローワークの説明通りに求人した。
- ・学校から頼まれた為
- ・今の時代1社のみの応募はナンセンスである

<10月1日以降複数応募可>

【社】

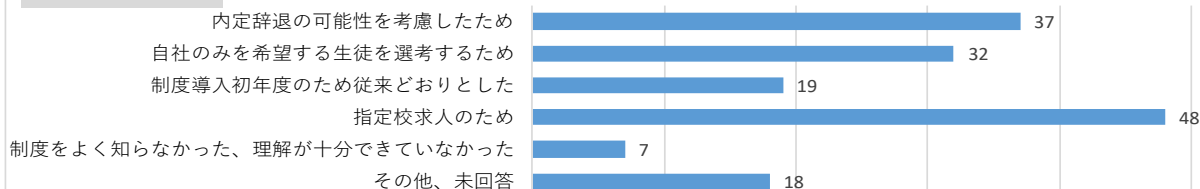


（主な意見・その他）

- ・進路指導部のご意向を確認しながら方向性を決定した
- ・日程を複数日設ける都合上当初は「否とした」
- ・会社内で条件を統一するため
- ・近隣高校へヒアリング*する中で1次は専願する生徒が多いと伺ったため

<複数応募否>

【社】



（主な意見・その他）

- ・指定校求人では採用できているため。
- ・学校の担当者も理解できていないケースが散見された。
- ・各校ニーズが1社応募だった為、複数応募可は不要と判断した

質問2：本年度の選考に係る応募状況等について（複数回答可）

回答項目	合計	当初から 複数応募可	10月以降 複数応募可	複数応募は否
応募者が増えた	88	51	15	22
応募者が減った	198	129	44	25
学校から求人内容などの問い合わせが増えた	31	19	5	7
応募前の職場見学を希望する生徒が増えた	102	67	18	17
内定辞退・応募辞退があった	38	32	4	2
支障が生じた・対応に苦慮したことがあった	21	21	0	0
例年と変わらなかった	249	158	45	46
その他・未回答	62	32	21	9

（支障が生じた・対応に苦慮した主な意見）

- ①内定辞退があり、採用活動が長期化した。
- ②複数応募について、ハローワーク、各高校、各企業で認識が若干異なり足並みが揃っていないと感じることがありました。
- ③複数応募で生じる内定辞退の可能性から辞退届などの書式が整備されたが、内定諾否の連絡は学校により対応が異なる点は改善すべき。
- ④内定通知を出した複数応募の関係で当社に入社する意思確認をする術がわからなかった。（学校に問い合わせ確認した）一般のように入社承諾書の提供を求めて良いのか不明だった。
- ⑤9月複数可は隣接県と足並みをそろえてほしい／県をまたいだ求人をするため、全国統一のルールにしてほしい。
- ⑥内定承諾／辞退書が揃うのに時間がかかり、社内の人事決裁や二次募集のアクションが遅れた。

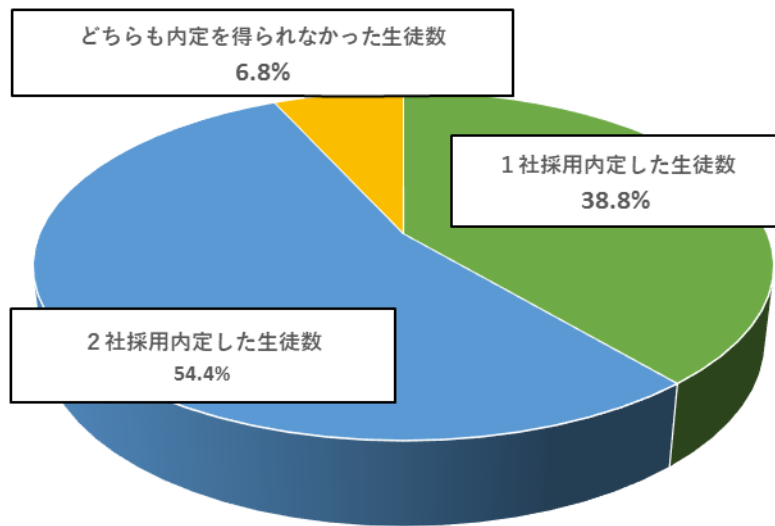
（その他の主な意見（複数応募、その他））

- ⑦生徒の就職希望先の選択先が増えた事はよかったと思います／できるだけ多くの生徒にチャンスを与えて欲しい
- ⑧気軽に応募できるようになればよいと思う。
- ⑨見学者が多く選考にかかる時間は総じて増えたが、ミスマッチの防止にはなると思うので、引き続き複数応募可としたい。／今後定着していくと生徒さんのためになる制度と思います。
- ⑩あまり変化を感じられなかった、もっと積極的に複数応募制度が使われ生徒も企業も選択肢が増えミスマッチを防ぐようになってもらいたい
- ⑪高校の進路の先生から生徒の辞退に関するお詫びをいただいたのが心苦しかった。
- ⑫複数応募にしたことで求人問い合わせや見学者などは増えたが、実際は内定辞退等もあり採用活動の苦戦した印象です
- ⑬今後の採用活動のために、企業・生徒がどの程度この制度を活用されたか公表いただきたい。
- ⑭他社は複数応募不可とするところが多く、こちらが可としても意味がないと思いました。
- ⑮学校によっては複数応募は不可としている学校が多い／企業側が複数応募可としても、学校側が例年通り1人1社の応募をしている感じが見受けられました。お互いにリスクはあるかもしれませんが、来年に期待します。
- ⑯複数応募にすれば早期離職が解消できるというほど簡単な話ではない。他の制度も合わせて変えないと今のスケジュール感では複数になれば、一層、1社あたりの理解不足のまま応募とならないか？学校側でも対応しきれないという意見が多く聞かれた。
- ⑰応募者増を期待したが、応募がなかった。
- ⑱複数応募制を導入するのであれば、応募者（＝就職希望者）の数が増えるような施策も同時に行っていただきたい。

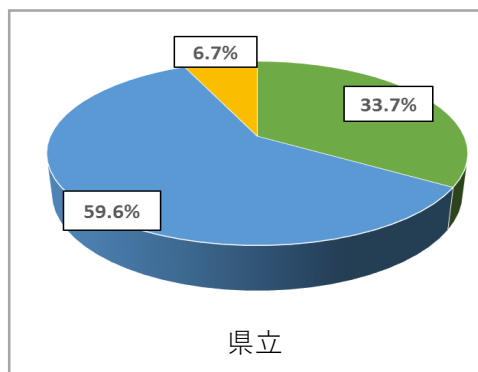
3. 複数応募に関する【学校】アンケート調査結果

県立高校 77 校、私立高校 28 校を対象に、複数応募の活用状況・履歴書のPC作成・応募前職場見学の状況についてアンケート調査を実施した。
(私立広域通信制高校の他県施設分も含む。)

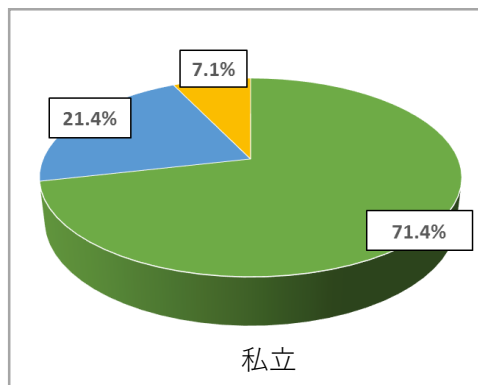
複数応募・推薦状況	県立	私立	合計
①複数応募・推薦を受けた生徒数	89	14	103
②①のうち複数応募・推薦により1社採用内定した生徒数	30	10	40(38.8%)
③①のうち複数応募・推薦により2社採用内定した生徒数	53	3	56(54.4%)
④①のうち複数応募・推薦により2社応募したがどちらも内定を得られなかった生徒数	6	1	7 (6.8%)



全体



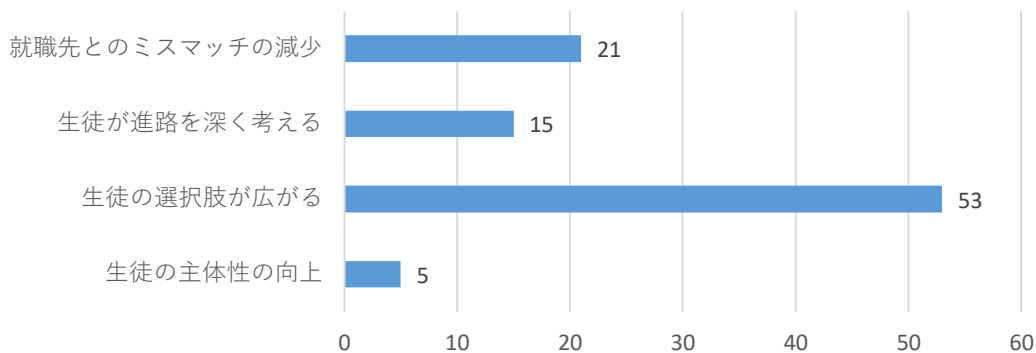
県立



私立

従来どおりの「一人一社応募・推薦」状況	県立	私立	合計
①「一人一社応募・推薦」を受けた生徒数	3,524	221	3,745
②①のうち採用内定した生徒数	3,364	153	3,517

【複数応募・推薦のメリット（複数回答可）】



【その他】自由記述

第一希望の企業に挑戦できる

同じ職種で比較できる

2社受験し、1社不採用でも、もう1社から内定を頂けた

1社受験でも履歴書作成・面接練習に生徒は四苦八苦している

複数応募受験生徒が極めて少ない。

保護者からも1企業絞るために見学は複数、応募は1社で良いという意見が多かった

生徒の時間が2社分に分散され、十分な準備ができない

本校生徒が希望する多くの企業では10月以降にならないと複数応募ができないとのことで、あまり利点を感じていない

複数応募の組み合わせが成立しない

複数応募とする企業数が少ない

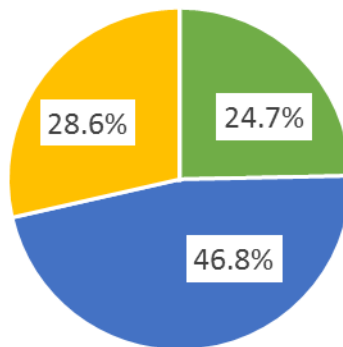
2社までにしか絞りきれないという考え方もできるため、ミスマッチを減らせるとは考えにくい

求人票受付から試験までの日程が短いことから、現時点でのメリットよりデメリットの方が大きいと感じているとくに利点はない（6件）

【複数応募・推薦による教員の負担感】

77件の回答

回答項目	回答数
大幅に増えた	19
少し増えた	36
変わらない	22
少し減った	0
大幅に減った	0
計	77

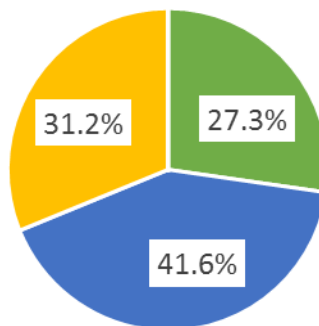


- 大幅に増えた
- 少し増えた
- 変わらない
- 少し減った
- 大幅に減った

【教員から見る複数応募・推薦による生徒の負担感】

77件の回答

回答項目	回答数
大幅に増えた	21
少し増えた	32
変わらない	24
少し減った	0
大幅に減った	0
計	77



- 大幅に増えた
- 少し増えた
- 変わらない
- 少し減った
- 大幅に減った

【複数応募・推薦についての主なご意見】

- ①応募要件の確認、保護者への対応で担任の負担感があるように感じた。しかし、選択肢を広げるという観点から良い方法ではあり、数年の様子を見て検討することが良いのではないかと。
- ②今年度は本校では2人しか希望者はいなかったが、次年度以降は増えていくのではないかとと思われる。生徒・教員・企業側の負担にはなるが、生徒にとってのメリットは大きいと思う。
- ③本校の生徒の現状を考えると、複数応募は難しい。志望動機を複数社用意することが能力的に難しい。
- ④今年度の生徒やご家庭の印象としては、二社希望のメリットよりも、準備の大変さを避けて一社受験に専念した方が多かったように感じた。
- ⑤今回は複数応募を希望する生徒の数が少なかったため指導も少しの負担増ですんだが、人数が多いと教員の負担はかなり増える。
- ⑥想像以上に、複数応募の利用者が少なかった。その点では、来年度以降複数応募のメリットなどをより周知させて利用者を増やしていてもよいと感じた。
- ⑦2社のどちらになっても内定を承諾できるということを、しっかり生徒と確認した上で、準備も2倍になる覚悟を持って取り組ませることができれば、生徒の進路決定には非常に効果的な方法だと感じた。
- ⑧複数応募で、複数合格したとき、就職辞退の連絡が心苦しいと感じた。
- ⑨本当にどちらの企業になっても就職する気があるのか、事前に慎重に確認しておく必要があると感じた。
- ⑩複数応募がなぜミスマッチの減少につながるのかの説明が必要だ。もっと具体的なわかりやすいルールも必要だ。
- ⑪複数応募が可能になると、企業研究や志望動機にかかる時間が少なくなり、むしろ早期離職につながるのではないかと危惧している
- ⑫複数応募できるようになったことはいいが、準備期間が例年通りなので、結局負担は増えるため、ほとんどの生徒は希望していない。
- ⑬複数応募の組み合わせが成立しない。1社受験でも履歴書作成・面接練習に生徒は四苦八苦している。
- ⑭初年度ということもあり、採用試験（選考試験）実施の期限や内定辞退届の締切などが定まっていなかったため、学校側や企業側がどのように動いてよいのか不明な点が多かった。
- ⑮複数応募可の企業において、最終結果通知までが長期化する（複数回の試験を実施する）場合、他企業との結果通知から期間のひらきがでることも想定し応募を検討しなければならないなど生徒の負担感もある。
- ⑯1次募集の不合格者が増えました。「応募が急増して競争が生まれたから」と採用担当者が教えてくださいました。
- ⑰同時に応募しても試験時期、内定時期がズレると、一方に待ってもらわなければならないのが心苦しい。
- ⑱支援が必要な生徒が多くを占める本校では、複数企業への応募を同時進行で準備することが大変難しく、その書類作成を指導する教員の負担も計り知れない。以前から複数見学を行っている本校においては、応募前見学の日程調整にも時間がかかり、上記の件も相まって、応募解禁となる日程が後ろにずれない限り、複数応募は難しい。
- ⑲他県・他地域と異なる制度であると、不公平感や違和感を持つ生徒・保護者がいる。
- ⑳本校は他県からの求人も多く、茨城以外は一社制のままなので混乱が生じた。就職希望生徒と保護者に説明し理解してもらうという負担が加わったが、結局は全員が一社制で希望した。

【履歴書の作成（応募）方法】

履歴書の作成（応募）方法	県立	私立	合計
手書き	1,468	153	1,621
PC	1,904	90	1,994

【職場見学の実施状況】

職場見学の実施状況	県立	私立	合計
(1) 職場見学を行っていない	33	66	99
(2) 職場見学は1社のみ実施	1,185	121	1,306
(3) 職場見学は2社以上実施	1,180	80	1,260
(4) 職場見学は3社以上実施	896	49	945

（職場見学を行わない理由）

- ・ 見学の必要が無い企業（縁故）だったため。
- ・ 見学が不可の企業だった。
- ・ 希望した時にはすでに終了していた／スケジュール調整が困難であったため。

（1社のみ実施の理由）

- ・ 第一希望の企業に準備を集中させるため
- ・ 入学時から具体的な職種、進路先を希望させるように指導しており、求人を受け付ける前に希望企業がほぼ固まっている
- ・ 生徒の志望企業が固まっており他企業を考えてないため
- ・ 生徒の志望企業がインターンシップ先であり早くから希望が固まっていた。企業説明会で3～5社話を聞いていたのでその中から厳選していた。
- ・ デュアルシステムで就業している事業所への応募、進学から就職へ切り替えた生徒であり応募期限が迫っていたため、12月のジョブフェスタの流れで急遽応募することになったため